

令和7年11月25日（火）15：30～16：30

会場：清和公民館

創徳中学校区 拡大学校運営協議会【記録】

記録者：飯野小 湯浅

1, 開会挨拶 創徳中学校 南條委員長

法律や規則に則っている学校運営協議会は、学校の便利屋ではない。みんなで知恵を出し合って、熟議していくような学校運営協議会であることが大事である。

2, 講演：教育支援課 加藤稔明 CS アドバイザー

「各学校がめざす鈴鹿型コミュニティ・スクールとは」

- ① 「鈴鹿型」とは、鈴鹿市の各学校や地域の状況に応じて、臨機応変に活動できるようについているので、文科省とは少しづれがあるかもしれない。学校、地域、保護者が力を合わせて、地域とともにある学校に転換するための仕組み。地域の声を積極的に生かし、一体となって特色ある学校づくりを進める。
- ② 鈴鹿市の場合、平成16年度から。「学びのネットワーク」（学習ボランティア）と「安全安心のネットワーク」（見回りパトロール）を進め、地域ぐるみの教育環境づくりを進めてきた。
- ③ 平成23年の鈴鹿市教育振興計画に「地域ぐるみの教育の推進」が組み込まれた。
→市内すべての学校をCSに指定。他県とは違う特徴的な取組で、他市からも問い合わせがある。
- ④ どんな子どもを育てていくのか、どんな学校、地域にしていくのか。めざす姿を共有し、一緒になって活動していく。学校、地域の双方向の連携。学校の実態や地域の特色を生かして、多様性を大切にする。さらに、子どもの教育をどのような街づくりに繋げていくのかまで発展させられるとよい。

⑤ 「支援型」（ボランティア）から「連携型」（サポーター）へ。子どもの教育課題を共有、協議し、具体的な改善に取り組む。現在は、「協働型」（パートナー）を目指す。各学校の状況はどうだろうか。

⑥ 協働型にするためには？

誰もが理解しやすい共通の目標を設定する。多様な地域資源（ヒト、モノ、コト）を積極的に活用する。育てたい子ども像や目指すべきビジョンを熟議する。

【まとめ】

まずは、学校のこと、子どもことを知りましょう。子どものことを語り合いましょう。地域やふるさとへの愛着に繋げましょう。P D C A サイクルで、来年どうすればよいのか、振り返りをするなかで、来年度の構想や改善の熟議を進められるようにしていけるといいですね。

＜質疑応答＞

なし。各学校で振り返り、意見、感想を出しあってください。

3, おわりの挨拶 創徳中岡村校長

鈴鹿市は、保幼小中一貫教育を目指している。創徳中校区では、主体的に行動できる児童生徒の育成を共通目標として掲げた。そんなふう育成していくように地域でも進められたらありがたい。